

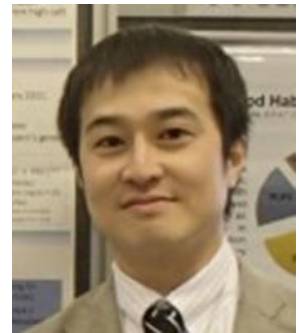


プライマリ・ケアにおける臨床研究 ～生活習慣介入研究に参加して～

宮崎県立宮崎病院 産婦人科 地域医療科 (宮崎 28 期)

高村一紘

このたび、International Journal of General Medicine に “Influence of salty food preference on daily salt intake in primary care.” がアクセプトされ、本稿で皆様に御紹介させていただく機会をいただきました。データ収集、データ解析、学会発表、論文作成に至るまで、地域医療学部門の岡山雅信先生（現 神戸大学大学院 医学教育学分野地域医療教育学部門教授）をはじめ、大規模地域ゲノムバンク/生活習慣介入研究チームの皆様にも多大な御支援、御指導をいただき、心より感謝申し上げます。



私が、臨床研究をはじめたのは、医師 6 年目に西米良診療所に赴任したのがきっかけでした。赴任当時、県人会の 1 つ上の先輩の影響で大規模地域ゲノムバンク/生活習慣介入研究に、西米良診療所も参加することになりました。ちょうど自治医科大学産婦人科で後期研修を終えて、なんとなく研究に興味を湧き始めていた時期で、部活でお世話になった先輩も参加されていたこともあり、自分も研究チームの仲間に入れていただきました。西米良村は、県西部の中山間部に位置する人口約 1250 人、高齢化率約 40% の村です。西米良診療所は、一般病床 13 床、介護療養病床 6 床を有する西米良村唯一の医療機関で、医療だけでなく、予防や福祉にも力を入れていました。また、全国的には珍しい非常備消防地域であったため 24 時間体制で救急対応を行い、ときに病院前救急や救急搬送も行っていました。自治医大の義務年限の医師 2 名体制で、月の半分を待機しなければならず大変なときもありましたが、地域住民のネットワークが確立できていて、プライマリ・ケアを行うにはとても恵まれた環境でした。

臨床研究初学者であり、学会発表や論文作成までできるか不安はありましたが、定期的にスカイプを使ったミーティングに参加することで、研究に関する知見を共有でき、モチベーションを維持することができました。また、本学で直接御指導いただくこともありましたが、主にスカイプやメールで丁寧に御指導いただき、論文以外にも国内学会で 2 回、国際学会で 1 回、発表することができ貴重な経験を積ませていただきました。

論文のテーマは、塩分の好みと塩分摂取量についてで、生活習慣介入研究のベースラインデータを解析しました。塩分の好みと塩分摂取量に関する先行研究はありましたが、この論文ではプライマリ・ケア領域における塩分の好みと塩分摂取量の関連とその意義について報告いたしました。

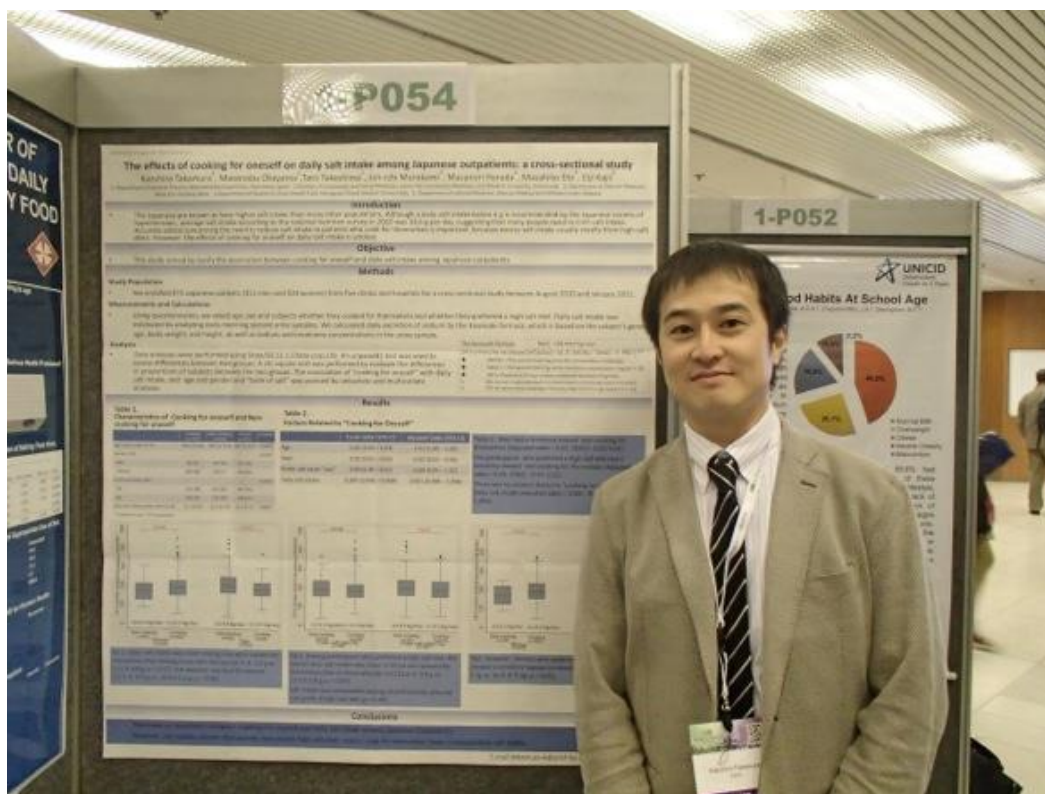
何よりもへき地医療で得られたデータを形にできたことは、自分にとって自信につながりました。一方で、得られた結果を考察し結論に導くことの難しさを実感し、これから力をつけなければならぬと反省もしました。

大規模地域ゲノムバンク/生活習慣介入研究に関わらせていただいて5年目になり、いろいろな経験をさせていただきましたが、メンターの継続的な御指導があったからこそ、ここまで続けることができたと思います。

現在、義務年限最終年度を迎え、宮崎県立宮崎病院産婦人科で後期研修をしています。個人的には、産婦人科医の減少、訴訟リスクなどの問題から産婦人科医療の集約化が進む中、へき地・離島のウィメンズヘルスクエアをどうするかというテーマも何か臨床研究につなげていきたいと考えています。

今後も研究に臨床に自分にできることをコツコツと続けていきたいと思っています。

1) Kazuhiro Takamura, *et al.* Influence of salty food preference on daily salt intake in primary care. *Int J Gen Med.* 2014; 7 205-210.



WONCA2013 プラハ 2013年6月

！！地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集！！

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp